

CSR 行動指針の浸透と具現化を目指して

三菱重工業(株)
社長室広報部

CSR グループ長 瓜生 振一郎

CSR 行動指針の 3 本柱

三菱重工グループは社会の進歩に貢献する“ものづくり”を事業の基本に据え、インフラの整備や環境負荷低減に寄与する製品を提供することで地球規模の課題解決に貢献している。そこで、多様なステークホルダーに配慮しながら事業活動を通じて得られた利益を、関係する全てのステークホルダーに最適に還元すると共に、卓越した技術・製品の提供を通じて、人と地球の確かな未来を実現することを当社グループにとっての社会的責任（CSR）の基本としている。また、この考え方をグループ全体で共有するために 2007 年 7 月に CSR 行動指針を定めた。

この CSR 行動指針は、① CI(Corporate Identity) ステートメントである“この星に、確かな未来を”に直結する「地球との絆」、②社会への積極的な参画を促す「社会との絆」、そして、③持続可能な社会の発展を考える上で重要な「次世代への架け橋」の 3 つの柱からなっている。この 3 つの柱はそれぞれが独立し、また時には有機的にリンクしながら、日本国内のみならずグローバル社会において当社グループの CSR 活動を行う上での共通理念となっている。

今でこそ「CSR 行動指針はグループ内で共有された理念である」と胸を張って言えるほどに浸透しているが、当時は CSR という新しい概念に対する社員の理解度が低かった。そこで意識向上の施策の 1 つとして、当社グループの CSR 行動指針を象徴するような具体的アクションに、グループをあげて取り組むこととなった。また、アクシ

ョン・アイテムの選定にあたっては、グローバル企業にふさわしい国際的な活動であること、そして当社事業との関連があることが条件とされた。

時間を要する具体的アクションの選定

国際的な活動にするという点については、海外、特に発展途上国をその対象とすることで大きな異論もなく決まったが、当社事業との関連についてはなかなか検討が進まなかった。そこであらためて当社の CSR 行動指針に立ち返った結果、地球との絆に代表される環境負荷低減製品の提供が望ましいとの結論に至った。中でも太陽光発電は発電規模にもよるが比較的設置面積が小さく、また機械的な稼働部分がないためメンテナンス・フリーに近く、途上国での導入や設備の維持が容易である。そして何よりも再生可能エネルギーであり地球環境にやさしい発電システムであることなどから、今回取り組むべきアイテムとして最適であると考えられた。

次に対象とする地域の選定となったが、途上国とひと口にいてもアフリカにも東南アジアにも途上国と呼ばれる国々は存在している。それら全



DOWACEN 日本語学校の校舎

ての国々を対象とするのは現実的ではない。とはいうものの、どこかひとつの国に限定するにしても決め手に欠けるということで、ここでも選定作業は難航した。

そこで社内の各製品事業本部および各地の事業所へ、彼らが海外拠点を展開している地域へのニーズ調査を実施したところ、名古屋の事業所から、ベトナムと日本の友好・地域の発展を目的に設置されたNPO「ドンアイン・沖縄文化経済交流センター（DOWACEN）」の紹介を受けることができた。同NPOはベトナム・ドンアイン地区、およびその近隣の青少年への日本語や日本文化の教育に力を入れており、そこで教育を受けた青少年たちが日系企業の密集するハノイ郊外のタンロン工業団地で就職するなど、現地の雇用問題に大きく寄与している団体であった。また当社のベトナムにある民間航空機生産子会社でも、その卒業生を採用していることが分かった。

一方、ベトナムの電力事情はまだ十分とは言えず、タンロン工業団地への電力供給を優先するため、タンロン工業団地の近隣に所在するドンアイン地区では頻りに停電が発生しており、授業に必要な照明にも事欠くといった事態であることも判明した。独立電源として機能できる太陽光発電システムならば、この問題を解決することも可能である。

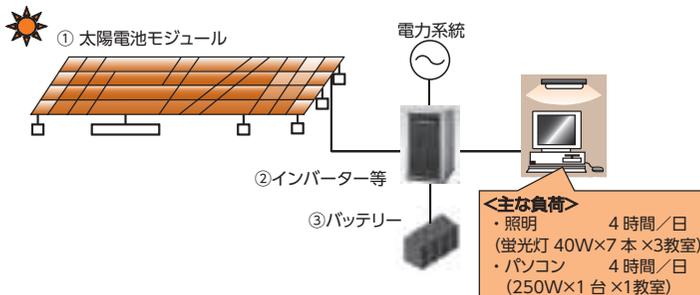
3本柱を具現化する太陽光発電システム

こうして、当社グループのCSRの象徴的な活



太陽光発電設備完成式典

太陽光発電システム構成イメージ



動として、ベトナム日本語学校への太陽光発電システム寄贈が決定された。これは当社にとって初めての海外への設備寄贈案件であったことから、決定から完成までには現地調査なども含め1年数カ月を要した。

2010年10月に完成した同設備は、約12KWの発電容量の太陽光発電モジュールとパワー・コンディショナーなどから構成されており、3教室分の照明やPC1台に必要な電力を賄うことができ、停電となった場合でも授業を継続することが可能となった。

振り返ってみれば、このプロジェクトは「環境負荷低減製品を提供することで（地球との絆）、電力の安定供給による授業の継続性を高め（次世代への架け橋）、その結果、地域住民の雇用確保に貢献する（社会との絆）」という当社グループのCSR行動指針をの3本柱をまさに体現するプロジェクトとなった。

さらには、NPOとの協働を通じて社会的課題の解決を行うという、企業側のみの都合によらない社会貢献活動を提供できたことは、今後の当社グループのCSR活動にとって非常に象徴的かつ参考になる活動であったと言える。ここで得られた貴重な経験を基に、当社グループのCSR行動指針に則ったCSR活動をグローバル規模で実施していくことで、この星に確かな未来を約束できる企業グループであり続けたいと考えている。■

◆三菱重工業(株)のCSRへの取り組み

<http://www.mhi.co.jp/csr/>